

第1回 2025年大阪・関西万博 成果検証委員会
議事要旨

日時：令和7年12月25日（木）15:00～17:30

場所：経済産業省本館12階特別会議室及びオンライン

<議事次第>

1. 開会
2. 成果検証委員会について
3. 大阪・関西万博の成果について
4. その他
5. 閉会

<配布資料>

資料1 議事次第

資料2 成果検証委員会について

資料3 委員等名簿

資料4 大阪・関西万博の開催実績及び成果の整理（案）

資料5 ご議論いただきたい内容

<議事概要>

○本日は年末ご多忙の折、成果検証委員会にお集まりいただき感謝。大阪・関西万博は184日間で2,900万人超の来場者を迎え、成功裏に閉幕することができたことは、関係者の皆様のご尽力の賜物であり、心より感謝申し上げます。私自身、会場で子どもたちが最新技術に触れ、未来への希望を感じる姿に、万博が残したレガシーの重要性を実感した。本委員会では、成果の検証、理念・記憶の継承、社会実装の制度的枠組み、剰余金の活用方針について議論する。忌憚ないご意見をいただき、万博のレガシーを未来へつなぐ大きな一歩となることを心より期待する。【越智政務官冒頭挨拶】

○大阪・関西万博は10月に閉幕し、2,900万人を超える来場者と多くの関係者の支えで成功を収めることができた。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、160以上の国・地域が半年間にわたり集い、いのちについて共に考え行動したことは大きな成果。今後は、様々なつながりやダイナミックな動きを一過性のものとせず、将来に如何に繋げ、発展させていくのかが重要な課題。当時の石破総理からも「大阪・関西万博の成果の検証とレガシーの継承の具体化」を検討して欲しいと指示があり、この委員会が設置された。本日は忌憚ないご意見をいただき、検証と継承に向けた議論を深めたい。【十倉座長挨拶】

資料2、資料3、資料4及び資料5を経済産業省より説明をした上で討議を行った。委員からの主な意見は以下のとおり。（順不同）

○シニアアドバイザーとして構想段階から関わり、8名のシグネチャーパビリオンのプロデューサーとの対話に参加してきた。実際に各パビリオンを訪問し、いずれも独創性と個性が際立っていたことに感銘を受けた。万博テーマ「いのち輝く未来のデザイン」は2018年の誘致決定時に設定されたが、パンデミック、地球温暖化の深刻化、国際秩序の不安定化に加え、生成AIの急速な進展など、激動の只中にある7年間を経た現在において、極めて時宜を得たものであり、「いのち」を中心に据えた万博は、今後の人類史の中で繰り返し振り返られるものとなると考える。万博の意義として重要である点と考える点を3点挙げる。第一は、サイバー空間が浸透する時代に、実世界で人々が大規模に集い、「生身の人間」や集合の意味を体験的に問い直すとともに、命の

多様性の意義を一般社会に伝えた点であり、とりわけ若い世代にとって重要な記憶となること。第二は、酷暑下開催を通じ、気候変動への適応策を社会に広げ、実装を考える契機を提供したこと。第三は、想定外への対応を含む経験を通じ、日本の社会の力や現場力を世界に示したこと。今後、閉会後に顕在化する点も含め、「閉会後に生まれる万博の価値」を丁寧に検証し、万博の成果を整理・記録し、社会全体で共有していくことが重要である。万博のレガシーは、施設等の有形の成果にとどまらず、人々の行動変容とそのプロセスにあり、それらが時間をかけて評価され、未来社会の肥やしとなることを期待している。【五神委員】

- 大阪・関西万博の高密度な取り組みと高い満足度に深い感銘を受けた。2018年の開催決定以来、長年の準備に加え、コロナ禍でも揺るがぬ開催方針を貫いた覚悟が、今回の成果を生んだと評価している。万博のレガシーを開催地域とグローバルの双方でどう展開していくかを考える上で、「けいはんな万博」は産官学民の連携ができるなど、確かな手応えがあった。また、交流と記憶の継承として、収益を活用した新たな学術文化支援制度の創設を期待している。さらに、万博で得た価値観や気付きを活かすために必要なことは、歩みを止めないこと。「いのち宣言」を万博会場から世界へ発信したが、これは理念ではなく世界とともに行動するための約束。とにかく行動を続けていくことが大事。会場内に限らず、万博に向けて生み出され磨かれた技術を如何に迅速に社会インフラとして実装できるかが日本の国際競争力を左右すると考える。強力な国家的支援のもとで社会実装を加速化させることこそが、万博を真のレガシーへと昇華させると考える。
- 【西尾委員】

- 大きく2点お伝えしたい。1点目は、万博の最大のレガシーは「人」であり、特に若い世代・子どもたちがこの経験を未来につなげることが重要。そのためには、リスクを取って挑戦する文化を社会全体に根付かせる必要がある。批判を恐れずチャレンジすることで価値が生まれるという万博での成功体験を、教育や起業支援、高齢者の生きがい作り等幅広い分野に活かし、チャレンジができる機運を醸成できると面白いと思う。2点目は、跡地開発。大屋根リングや静けさの森を残す方針はありがたい方針であるが、「場所の記憶」が大事である。何らかの形で場所に残って、新しい活動がそこに入ってきたとしても、やっぱりそこを再び訪れた時にはここに万博があったよね、こういう価値観が生まれたよねということを実感してもらうことを意識した都市開発を丁寧に進めていくべき。単に理念だけでなく、経済性を両立できるようなものを作っていけるとよい。【藤本委員】

- 今回の大阪・関西万博の成果について、2つの点を強調したい。1点目は日本の底力を世界に発信できたこと。能登の震災発生後、万博開催の是非が問われることもあったが、一貫して予定通り実施すべきと主張してきた。復興や災害対策は重要であるが、日本の国力を示し、コロナ後の内向き傾向を打破するため、世界に開かれた日本を示す場として万博は不可欠であった。国を挙げて取り組めば、ここまでのことが実現できるという実績を国民の皆さまが体感するとともに、日本の国力を世界に向けて発信できたという面で、経済界としては極めて大きな意義があった。日本商工会議所としても、大阪商工会議所との連携のもと、開幕1週間後に全国の商工会議所の会頭、副会頭等を対象に万博を訪問し、全国的な周知・PRに取り組んだ。2点目は、中小企業にとって非常に大きな意義があったこと。海外との接点が少ない中小企業が、万博を通じて自社の技術や製品を世界にアピールし、高評価や商談の端緒を得る機会になった。企業間のイノベーションも促進され、経済効果は非常に大きかったと考える。万博を通じて生まれたこの熱気と機運を、名古屋のアジアパラ競技大会や横浜の国際園芸博覧会へ継承することが重要だと考える。【小林会頭】

- 今回の大阪・関西万博は、「共創」の考え方を実践し、現在進行形で改善していく点、来場するだけでなく運営側にもまわって楽しめる、今までにない価値観の生まれた画期的なイベントだった。私自身、多数のいけばなのイベントに深く関わり、伝統文化とデジタルの融合や若者の参加促進など、従来の枠を超えた新しい展開が生まれたと感じている。他分野との連携も進み、ここ

で得た知見・つながりは一過性のものではなく、次に活かしていくという意識をもたらしたことが大きい成果。一方で、来場者の地域偏在やデジタル対応の格差、経済効果の波及範囲についてはどうなのか、疑問が残るところである。今後は、万博に来場できなかった人々にもレガシーを還元する仕組みが重要であり、教育的ツールやコンパクトに気付きのきっかけになるような情報発信や場の提供を通じて、万博の意義と成果を広く伝える必要があると考える。【池坊委員】

○ジェンダー平等だけではないが、対話や共有の場を継続してほしいと求める声は非常に多く聞く。リアルとオンラインも双方のプラットフォームの強みを生かして、様々な方々が交流できるプラットフォームというのは、一つのレガシーとなる。フィジカルに感じる感動や感銘とインパクトの深さは本当に計り知れないと感じた。また、思いがけない計画しなかった出会いや、視野を広げるきっかけが本当に万博会場の至るところで起こっており、そこには計り知れない成果があったと考える。世界規模の集まり、こういった今のグローバルな状況の中で、特に世界が交流する場において、日本が発信できること、日本の強みや良さを発信していくことは今後も万博を超えて、継続していけることと考える。【宮地委員】

○今回の万博は「いのち」という非常に難しいテーマだったが、多くの提言が出され、ゴールではなく、出発点としてアカデミアやビジネス、そして文化という人間の生き方を考える上で重要な催しとなった。万博が始まってからは手のひらを返したように宣伝してくれたが、マスコミの影響というのは、少々慎重に考えた方が良い気がする。万博会場から遠い地域に足を運んだ際に、ネガティブな声を非常に多く聞いたが、これはマスコミが煽ったせいだろう。世論というものがいかに簡単に動くものであるかを実感した。これは今後、ちゃんと考えていかなければならない。万博のレガシーはシンボルをいくつか残しておくべきと考える。自然と文化というものがこれほどきちんと組み合せて、多様でありながら一つというレガシーを作ったということを後世に残す上で、大屋根リングと静けさの森は欠かせないものだと考える。また、文化や芸術の展示の場所として例えばヴェネチア・ビエンナーレのような催しも持続的にやっていってはどうか。SDGs というレガシーを込めて、アカデミア的な機能も残しつつ、ハブになるような機能を民間あるいは政府との協力体制のもと築けないか。夢洲が瀬戸内海に開いていることが非常に重要であり、海路で結んでいける。【山極委員】

○今後、レガシーが非常に重要になる。まず、万博の成果そのものとも言える大屋根リングや静けさの森を一部残し、後世に残していくべき。必要な経費は剰余金の活用を検討したい。大阪ヘルスケアパビリオンも一部を活用し、先端医療やライフサイエンスの発信拠点にする計画。ハードだけでなく、ソフト面のレガシーも不可欠で、万博で披露されたライフサイエンスやカーボンニュートラル、空飛ぶクルマなどの新技術を社会実装するための仕組みが必要。また、スタートアップやライフサイエンスの国際会議をレガシーとして継続開催し、新たなイノベーションやビジネスを促進したい。さらに、デザインやアートの力も成果の一つであり、ミyakumiyakuや「こみやく」のような象徴的なデザインを誰しもが使用できるようにし、人と人をつなぐもの、共創につながるものとして活用してほしい。ハード、ソフト、そしてデザインのレガシーをしっかりと実現していきたい。【吉村知事】

○つながりが生まれ、そして気づきや共有ができて、そして新たな価値が創造されていた。これが繰り返されてきたというのが、万博の大きな意義であったと思う。大阪市では万博期間中に11の国・都市等とのMOU等の締結や、36年ぶりの姉妹都市提携を実現するなど、世界とのネットワークが広がったことも大きなレガシーであった。地元自治体として、この成果を後世に伝えるため、大阪・関西万博の大屋根リングの活用に関する検討会で議論いただいた、大屋根リング約200mの残置と都市公園の整備は、レガシーを展開していく重要な役割を果たしていくと考えている。またハード面の整備という意味に留まらず、ソフトレガシーを展開する場所にもなり得ると考えている。リングを背に文化交流イベント、音楽イベント、ビジネスイベントなどを開催することもできるし、ライトアップをすれば昼夜問わず人が交流するステージになっていくと思う。

今回の万博で大きく評価されているところは人と人とのつながりだと思うので、これを確実に後世に伝えていく必要がある。国内外から得られた万博の成果やレガシーを世界に向けて発信する唯一無二の空間としていきたい。皆様に愛された万博を後世に残していくべく、全力で取り組みたい。【横山市長】

○大阪・関西万博は、世界各国とのリアルな交流、「いのち輝く未来社会」に寄与する最先端の技術やサービスの体感、大阪・関西の国際的発信力の向上などの成果があった。これらの成果を踏まえ、関西が新たなビジネス、文化、芸術などの創出・交流の核として国際的に大きな役割を担えるようになることが、関西のみならず日本全体にとって極めて有益。そのために必要な取り組みは3点。1点目は万博で披露された新たな技術やサービスの社会実装。万博をやった以上のバイタリティーと熱量を持って取り組む必要がある。また万博会期中に開催された国際的なビジネスイベントを継続開催し、関西が新たなビジネスチャンスに出会える場として国際的に認知されれば、関西のみならず国全体の経済発展につながる。2点目は広域観光の促進。万博で高まった関西の訴求力を活かして広域周遊を進めれば、関西はもとより西日本広域にわたってさらなる地域経済の発展、国際交流の浸透につながる。3点目は、夢洲を舞台とした万博レガシーの発展。文化・芸術・スポーツなどを題材に内外の若者の夢や心身を育むとともに、数多くの先進的技術を目の当たりにできるエリアにすべき。そのためには今後の夢洲2期区域の開発が万博の跡地にふさわしい開発となるよう指針が必要。【松本会長】

○この成果検証委員会には、大阪・関西、日本の未来を作るような場となってほしいと願う。万博会場にはトータル約5,000億円の投資が国・自治体・民間から投入されており、税金が使われていることを考えると、議論には高い透明性が求められる。大事な点としてあげられるのは3点、①ソフトレガシー、②万博の跡地利用、③剰余金の使途。万博で生まれた知や価値を散逸させず、外交・ビジネス・文化交流などを統合する「場」のあり方を検討すべき。また、会期中に行った中小企業・スタートアップのイノベーション展示についても、他の場所で同じことを繰り返しても、差別化できずに負けてしまう。検討することは多いが、「場」のあり方を第三者的に検討する必要がある。また、アートやデザインの力も重要。万博の場を活かして、活用方法を見直すべき。さらに、80年前に戦争があったことも忘れてはならず、SDGsや人権など高い理念を事業の中心に据えていくことも必要になってくると思う。【鳥井会頭】

○重要と考えるポイント3つ。1つ目はソフトのレガシーについて。海外からの来場者が5%程度と期待したより少なかったが、来場した外国人には会場外も含めて日本の魅力を感じてもらえたと思う。今後は日本の魅力をもっと発信、感じて貰うことが重要でデータ、ノウハウを園芸博など今後のイベントに生かしていくことはもちろん、SNSやデジタルでの発信強化や、海外の日本の研究者に日本を理解してもらうための枠組み強化も考えられる。2つ目は新たな技術・システムの社会実装について。我が国が誇る技術システムが、来場者のみならず各国・企業から大きな成果を上げた。社会実装に向けて着実に取り組んでいくことが重要。会場内全面的キャッシュレス決済が実現できたことは大きな成果だと思う。万博のプロセスで得た知見を全国に広げて活用していけば、政府が最終目標に掲げるキャッシュレス比率80%に向けて加速していくことが出来ると思う。3つ目は剰余金について。検討に当たっては、オールジャパンで取り組んだ万博のレガシーをハード・ソフト、大阪・関西と日本全体の2軸で分類・整理した上で具体策を考える事が重要。【國部委員長】

○成果についてはオールインクルーシブな取組と、リアルには勝てなかったがバーチャル万博の取組にも触れて欲しい。五神委員同様にイベントの評価というのは後から決まるものだと感じており、70年万博がそうだったように、関わったプロデューサーの方々が「こういう万博だった」とぜひ力強く発信いただきたいし、そういう方々を応援してあげることがレガシーの実現のために重要だと思う。レガシーの具体化にあたっては、國部委員長同様に「関西と日本」、「ハードとソ

フト」のような軸を作って検討すべきだ>と考える。また、人工島での開催であり非常に限られた交通アクセスから、運営のため万博史上初めて予約システムと万博 ID を導入したが、会場の狭さから考えて 2,900 万人も入ったことは奇跡的だと言われることもある。データを使い IT を駆使したこのやり方を次の万博や、今後万博を開催するポテンシャルが高まっている ASEAN の国々に引き継いでいくことが重要だと思う。【石毛総長】

○各委員・関係者より、立場や広い視野に基づく指摘・コメントを頂戴した。事務局として、背景を含め認識を新たにした。キーワードとして「チャレンジ」「未来の世代、子どもたち」「大阪・関西とグローバル」「ハードとソフト」「万博事業運営」が挙げたと思う。いただいた意見を踏まえ、成果の取りまとめ内容をブラッシュアップしていきたい。次回の委員会では、レガシー展開の方向性を整理し、分野やバランスに関する具体的な検討案を提示したい。本日不参加の委員・関係者からの意見も聴取し、具体化を進めていく。実現には難しさが伴うが、熱量と時間軸を見据えた取組が必要。かけ声だけで終わらないよう、国・自治体・経済界が一体となった推進体制を構築していく。【事務局】

○資料 4 に二つの視点を加える事を提案したい。一つは国際的連携への貢献。夢洲で半年間滞在した方々が多国間交流の経験を重ね、政府関係者や専門家同士がこの後につながる縁を結んだこと。分野によっては今後の共同行動につながる具体的なネットワークも結成された。もう一つは運営に関わった人達の国際人材としての成長。来場者だけでなく多数のボランティアまでを含む運営者のすそ野は広く、万博が社会に残した最大の財産と言っても過言では無い。次に、今後の展開についても二つの柱にまとめて提案する。一つは、万博精神を継承した、多くの人々のアクションを引き起こしていくような仕組みを残したいということ。具体的には、今回の万博の「多様でありながら、ひとつ」という精神に基づいて構想した、多様な文化事業や学術活動を末永くかつでできるだけ柔軟に支援する助成金制度の創出。1970 年万博の記念基金の助成事業の拡大も一案。もう一つは、レガシーを国内還元>に留めず国際社会、特に万博の将来へ還元すること。開発途上国諸国もいつか万博を開催するという想定のもと、今回の万博の経験を生かして人材育成などの支援をしてくことで、国際社会に誇れるレガシー事業を起案する事が可能だ>と考える。【佐野委員 ※欠席のため事務局が代読】

○各委員・関係者の発言を聞いて共通していたのは、「リアルのすごさを実感した万博だったこと」かと思う。四方を海に囲まれている日本において、リアルな交流が失われつつあることのへ歯止めの一つになったのではないか。また、残置される 200m の大屋根リングには、場の記憶を残すための色々な仕掛けが必要。映像技術を使ってアーカイブも作っている>ので、大阪のまちづくりを含め、夢洲での活用を検討してもらいたい。大阪・関西万博の成果を継承しレガシーとして次世代に継承していくことは私たちの責務であり、本日の委員会での議論はその第一歩である。引き続きよろしくお願いします。【十倉座長】

○本日は万博イヤーの年末のご多用の中お集まり頂き、また忌憚なきご意見を賜り誠に感謝申し上げます。大阪・関西万博の成果をしっかりと検証し、レガシーとして次世代に継承していくことは私たちの責務であり、本日の委員会での議論はその第一歩である。万博で得られた成果を未来に繋げていくため、今後、関係する方々からのお声も頂戴しながら議論を深めていきたいと考えているが、引き続き皆様のお力添えを賜りたい。【越智政務官】

(以上)

(参考)

<出席者>

委員（五十音順・敬称略）：

十倉 雅和	2025年日本国際博覧会協会 会長 <座長>
池坊 専好	華道家元池坊 次期家元
五神 真	理化学研究所 理事長
西尾 章治郎	国際高等研究所 所長
藤本 壮介	大阪・関西万博 会場デザインプロデューサー
宮地 純	リシュモンジャパン合同会社 カルティエ プレジデント&CEO
山極 壽一	総合地球環境学研究所 所長

関係者

吉村 洋文	大阪府知事
横山 英幸	大阪市長
松本 正義	関西経済連合会 会長
鳥井 信吾	大阪商工会議所 会頭
小林 健	日本商工会議所 会頭
國部 毅	2025年日本国際博覧会協会財務委員会 委員長
石毛 博行	2025年日本国際博覧会協会 事務総長

経済産業省

越智 俊之	経済産業大臣政務官
藤木 俊光	経済産業事務次官
信谷 和重	近畿経済産業局 局長
松山 泰浩	首席国際博覧会統括調整官
奥田 修司	商務・サービスグループ博覧会推進室長

内閣官房

井上 学	国際博覧会推進本部事務局次長
------	----------------